

Title	澤井治郎氏による「新聞記事からみる『神学者』ラインホルド・ニーバー」報告（科学研究費補助金「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第2回研究会）
Author(s)	鈴木, 幸
Citation	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.23-No.3, 2014.3 : 33-33
URL	http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4956
Rights	



聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

科学研究費補助金「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」第2回研究会

澤井治郎氏による「新聞記事からみる『神学者』ラインホルド・ニーバー」報告

2013年12月9日（月）聖学院本部新館2階会議室において、2013年度第2回目「ラインホルド・ニーバー」研究会が、日本学術振興会科学研究費補助金の基盤研究（B）「ラインホルド・ニーバーの宗教・社会・政治思想の研究」（課題番号：23320025、研究代表：高橋義文）と、総合研究所のラインホルド・ニーバー研究会との共催で行われた。東北大学専門研究員の澤井治郎氏より、標記の題にてご報告いただいた。参加者は20名であった。以下に概要を記す。

ニーバーの思想がアメリカにおいてどのように評価されてきたか、ニーバーの死後に「ニューヨーク・タイムズ」に載せられた記事を読み解くことから考察が行なわれた。New York Times.comのアーカイブで、ニーバーが死去した1971年6月1日から2011年12月までの記事から「Niebuhr」を検索し、363件の記事が資料として取り上げられた。ニーバーの肩書には、「神学者」が一番多く、続いて「肩書がない」、「哲学者・思想者」、「宗教的人物」といった表現が使用されている。肩書には「プロテスタント」、「ドイツ系アメリカ」、「20世紀」、「偉大」といった説明語句を伴ったものもあり、修飾が並ぶことで、ニーバーの著名さがより強調されていることが示唆される。反対に、追加説明がなくても、説明する必要がなかったほどニーバーは有名であったとも言える。

記事は、8時期に分けて考察された。まず「死去直後」は、死亡記事や追悼記事において、ニーバーがアメリカの神学界で傑出した存在であったとともに、政治的にも影響力を有していたことが記されている。「1971-1974年」は、業績を記念するための書評や、ニーバーとの関連を示すことで他人の追悼記事に彩りを添えたり、また、政治・外交関連の記事として取り上げられている。「1975-1980年」は、バルトやティリッヒとともに、ニーバー

の神学的巨人の時代が過ぎ去ったことに言及する記事や、大統領選挙の動向（特にジミー・カーターとの関連で）を報じる記事で取り上げられている。「1981-1985年」は、記事数が少なく、話題も雑多である。「1986-1988年」は、1985年末にフォックスによるニーバーの伝記が出版されたこと等で、書評等の記事数が増えている。「1989-2000年」は、記事数は少ないが、アル・ゴアの選挙関連や、「共産主義の疑いがある人物リスト」との関連、1992年のニーバー生誕100周年に寄せた記事や、神学の代名詞として取り上げられている。「2001-2006年」は、2001年の9.11事件を受けて、アメリカの戦争の意味を整理する関連や、M. L. キングとの関連から報じられている。最後に「2007-2011年」は、ニーバー関連の記事がもっとも多く、それは特に「オバマ大統領お気に入りの哲学者」として取り上げられていることが影響している。

結論として、ニーバーに関する記事は、アメリカの神学動向や、外交、大統領選挙、公民権運動といった問題との関連にみられるが、それは、「正しい」方向へと導いてくれる「神学者」として、ニーバーが言及されていると考えられることが報告された。

報告後の質疑応答では、ニーバーに関心を持った所以や、政治的評価、アメリカの方向性、戦争の意義、公民権運動について、また、失敗しなければ学べないこと、ニーバーを基準にアメリカのあり方が見えること等が話し合われた。

（文責：鈴木 幸[すずき・みゆき] 聖学院大学基礎総合教育部ポストドクター）